

BCAO 関西支部 第 90 回勉強会議事録 (案) V2.5

日時: 2014 年 6 月 19 日(木)18:50~20:30

場所: 大阪市中央公会堂 展示室

司会: 鷺山 書記: 柳父

出席者:21 名(順不同、敬称略)

萩原、伊藤 (高)、鷺山、日下、野原、久保田、速水、徳永、柳父、田中、飯田、小友、小山、角、伊藤 (聖)、増穂、寅屋敷、能任、吉田、笹平、深井

話題「企業の事業継続力を高めるマンション防災」

提供者: 田中氏

- 居住マンション防災会設立の苦労話
- 手本としたマンション防災会の紹介 (かなり詳細な事例紹介がホームページにあり)
- 個人情報取り扱いや参加呼びかけに、どのマンションも努力と苦労あり
- 「隣は何をする人ぞ」の人間関係からコミュニティへ
- 挨拶から始め、孤独死予防へ
- マンションライフ継続支援協会という団体がある

Q: 阪神大震災の反省で、マンションの水が使えないのはなぜ?

A: 配管点検が必要で、漏水すると階下が水浸しに。風呂で水を溜めるのはいいが、排水は問題

C: 壁の破壊について、隣家との壁は問題だが室内壁、バルコニーや廊下との界壁側なら安全上では住めなくなるわけではない

むしろドアが開かなくなることが問題。但し、家具転倒などの室内の被害状態による。

C: 避難梯子は 1~2 階分使えば玄関を通過して廊下に出られるはず。地上まで使うわけではない

C: 家具の地震対策は有効かを調べる予定←ましにする積り程度で考えてください

C: 管理会社との有事対応契約は契約しても手が回らないだろう。事前対応が中心。

Q: マンションでは、段落として 5 階や 6 階が壊れやすいという傾向があるか?

A: 鉄骨鉄筋コンクリート造の時代には鉄骨鉄筋から鉄筋への変わり部分に力が集中したが、何階という一般法則はない

建物が大丈夫でも、生活できるのかという問題がある

Q: マンションライフ継続支援協会は周辺地域や企業とも連携するのか、避難者を受け入れるのか?

A: 検討項目に上がっていて、詳細はわからないがこれからの問題だろう

高台にあるマンションなら、海岸地区からの避難者を受け入れることも考えられる

Q: 工場や企業が周辺住民を受け入れるか?

A: BCP を持っている壁が高い。部外者が敷地内に入ることは問題で、復旧に支障をきたす。入り口近くに食堂などの公開可能な空間がある場合に限られそう

工場は業務上の通路や方向も限定され、稼働中は一般客を受け入れにくく、事故の責任が取れない

Q: 火災対策で地元消防との連携は? 高層、中層、低層で何か違うか? はしご車は間に合うか?

A: はしご車は地震の救助ではたどり着けず、当てにできないだろう。本当の火災には役立つ。

消防と打ち合わせているが、住民参加が少なすぎる

Q : ELV への閉じ込めで、住民による救出訓練は普及しているか？

A : 床の段差が 1 m 以上できると、余震が来た時に危険で、救出は難しいだろう。自主的な開放訓練をどうするか、先人に聞きに行きたいが、8 月まで日程調整がつかず、見学ができていない

C : ELV 救出訓練はハイレベルの対応だが、ELV 会社は人手不足で、手が回らないからだろう。

Q : 設備不足でできなかったことがあるか？

A : 下水道マンホールを利用するトイレは、ゲリラ豪雨では使えない。携帯トイレの方が使い勝手が良い

C : マンションの立地で異なるが、雨水を取り込まない敷地内マンホールであればマンホールトイレは使用可能である。(加古川グリーンシティは採用) マンション管理組合の初動自主対応目標が 3 日滞在とすれば、それぞれのマンションで事前取組みが異なると思う。

まだまだ質疑が尽きないが、時間が来たので、続きはメールでお願いします